

令和8年度 協議会総会を開催(5月22日)



名取副会長



山口新会長

令和8年度いばらき量子線利活用協議会総会を、5月22日(金)13時30分からひたちなかテクノセンター研修ホールにおいて開催しました。当日はあいにくの悪天候にもかかわらず、54名の会員・関係者の皆様にご出席いただき、会場は満席となる盛況のうちに開会しました。

総会では、名取副会長(株式会社化研 代表取締役)の開会挨拶に続き、茨城県科学技術振興課の寺門課長よりご挨拶をいただきました。

続いて会長選任が行われ、株式会社NATの山口誠哉代表取締役が新会長に選任されました。山口会長は就任挨拶の中で、「会員の皆様のご協力をいただきながら、協議会のさらなる発展に貢献していきたい」と抱負を述べられました。

その後、事務局より令和7年度の活動実績および利用実績統計について報告を行いました。また、令和8年度も会員企業への訪問や研究機関とのマッチングイベントなどを通じて、量子線利活用の支援を推進していくことを説明し、引き続き会員の皆様のご支援とご協力をお願いしました。

続いて、会員企業による中性子利用事例報告と講演会を開催しました。会員企業による事例報告では、株式会社スギノマシン 開発本部新規開発部開発PJ一課の小柳アシスタントマネージャーより、「中性子を用いたCWJPのメカニズム解明について」と題して発表いただきました。

J-PARC茨城県ビームライン(iMATERIA、iBIX)を活用し、中性子回折法によってCWJP処理後の金属表面内部における残留応力の分布を評価した研究成果が紹介されました。その結果、CWJPとショットピーニングの違いを定量的に評価でき、CWJPによる表面改質メカニズムの解明につながる成果が得られたことが報告されました。

(注1)CWJP (Cavitation Water Jet Peening): 高圧水を水中に高速噴射して無数の気泡(キャビテーション)を発生させ、その気泡が崩壊する瞬間の強い衝撃力を利用して金属の表面を改質する技術

続いて、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(QST)那珂フュージョン科学技術研究所の高橋副所長より、「JT-60SAの現状と今後の展望」と題してご講演いただきました。講演では、核融合発電の原理や超伝導技術を活用した長時間プラズマの実現、AIを用いたプラズマ制御の取組のほか、将来の産業連携に向けた課題など、JT-60SAの最新状況について紹介いただきました。また、J-PARCセンター物質・生命科学ディビジョンの大友ディビジョン長からは、「J-PARC MLF(Materials and Life Science Experimental Facility)の最新状況と茨城県ビームラインの開発状況」と題してご講演いただきました。J-PARC MLFが世界トップレベルの中性子・ミュオン実験施設として学術研究から産業利用まで幅広く活用されていることや、産業利用課題の約半数が茨城県ビームラインで実施されていることなどが紹介されました。

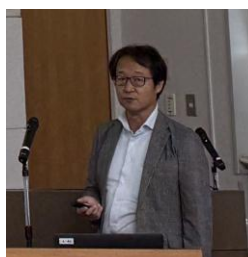
さらに、特別研修として、一般財団法人総合科学研究機構(CROSS)中性子産業利用推進センターの三田利用推進グループリーダーより、「中性子利用の産業展開と企業連携の深化」と題してご講演いただきました。講演では、J-PARCの施設概要やビームラインの運用状況、産業利用の現状、成果占有制度の活用状況などが紹介されるとともに、課題の明確化から実験、データ解析、人材育成までを含む利用支援体制について説明いただきました。



スギノマシン 小柳AM



QST 高橋副所長



J-PARC
大友ディビジョン長



CROSS 三田GL

各発表・講演後には活発な質疑応答が行われ、参加者の関心の高さがうかがえる有意義な機会となりました。

今後の協議会活動につきましては、メールマガジン等を通じてご案内いたします。引き続き、会員の皆様のご積極的なご参加とご協力をよろしくお願いいたします。